



子どもたちへ

お話しのおプレゼント

創作童話

第1回

「おばあちゃんの焼餅」

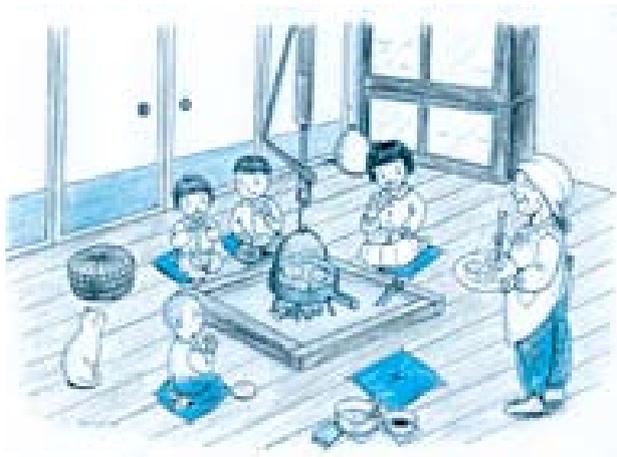
50年も前のこと。愛ちゃんという小学生がいました。弟や妹も合わせて家族は全部で10人。みんな仲良し。お父さん、お母さん、おじいちゃんはいいつも畑仕事。おばあちゃんは子どもたちにおやつを作ってくれます。

学校から帰るとおばあちゃんのと
ころへいちもくさん。

「おばあちゃん、今日のおやつはな
あに？」

「きょうはね、焼餅だよ」
少し残ったご飯とトロイモ。

おばあちゃんはトロイモをすりおろして、ご飯にうどん粉、それから細かく切ったニラも入れて、こねて平たくまるめます。そして、薪を燃やして焙烙で焼きます。砂糖醤油もつけて・・・
こんがり焼餅いいにおい。「いただきます」



「おばあちゃん、今日のおやつはな
あに？」

「じゃが芋の塩ゆでだよ」
「おばあちゃん、今日のおやつはな

「すいか。朝取ってきて水につけて
おいたよ」
「おばあちゃん、今日のおやつはな

あに？」

「さつま芋だよ」

「おばあちゃん、今日のおやつはな
あに？」

「さつまだんごだよ」

たまあに、ゆで饅頭、ぼた餅、甘酒饅頭もありました。

お祭りやお盆さまになると、お母さんとおばあちゃんと二人でごちそうをつくりまします。
愛ちゃんは食べても食べてもお腹がすいてしまいます。

お母さんの作ってくれたご飯も、おばあちゃんの作ってくれたおやつもいっばいいいっばい食べました。

「愛ちゃん、おいしいかい？」
「おばあちゃん、とってもおいしいよ」
って愛ちゃん。

おばあちゃんが嬉しそう。
「愛ちゃん、おばあちゃんの焼餅
おいしいね。いっばい食べて大きくな
ってね」嬉しそうなお母さん。

家族みんなの気持ち、愛ちゃんのお腹に入っちゃった。

原作・梅田 美枝（長岡在住）

絵・草野美奈子（箱根ヶ崎在住）

編集後記

長い間皆様にご愛読いただいたタイムマシン瑞穂号の旅が終わり、今回より読者の方からご応募いただいた創作童話が始まりました。いかがでしたか？タイムマシン同様、皆様に親しまれますよう、また一人でも多くの方に
ご応募いただきますよう
編集委員一同願っています。
(小川龍美)

